

短 報

栗駒山中におけるハコネサンショウウオの繁殖について

泉 祐一* 船木 信一** 本郷 敏夫***

1. はじめに

秋田県内にはサンショウウオ科 (Hynobiidae) は3種が生息する。トウホクサンショウウオ (*Hynobius lichenatus*)、クロサンショウウオ (*H. nigrescens*)、ハコネサンショウウオ (*Onychodactylus Japonicus*) である。

このうち、クロサンショウウオとトウホクサンショウウオの産卵については、その卵のうは各地で確認されており、主にクロサンショウウオは流れのない沼で産卵し、トウホクサンショウウオは小沢やわき水などのいくらか水が流れている水辺で産卵している。

しかし、ハコネサンショウウオ (写真1) は主に山地の沢で普通に幼生の確認がされているにも拘わらず、産卵状態については、全く情報が無かった。なお、県外では石川県、福島県、栃木県及び富山県の4カ所で過去に確認されている。

2. 調査地及び結果

調査地は秋田県の南東に位置する栗駒山の須川湖そばのブナ林内に設置されている取水施設である (写真2)。ここはブナ林内の沢そばの湧水を利用した地中の施設で、地上部のコンクリートで作られた部分は縦200cm、横135cmあり、これより山側には地中に更に大きな集水施設が埋め込まれている。

この地上部のコンクリート柵は縦180cm、横78cm、深さは100cmで、水深は約50cmあり、山側の端の直径約10cmの2本の塩ビ管から、水が入ってくる。水温は年を通して8~9度と安定している。

平成16年5月に地元からの情報からこの場所を調査した。

ハコネサンショウウオの卵のうは、塩ビ管の端を取り巻くように産みつけられていた。卵のうの中には、乳白色の卵が1房に約10~12個入っていた。

また、卵のうのそばには15cmほどの成体も数匹見られた。

この施設は上部の蓋を閉めると、光が全く遮断された状態となり、ハコネサンショウウオは完全な暗闇の中で産卵していることになる。

また、こことつながっている100mほど離れたポンプ室でも、ここから流れ出た成体が数匹確認された。

なお、産卵時期については今回は春期に行われたが、不定期でもあるようなので (写真3)、今後の調査に期待したい。

3. 謝辞

本調査は東成瀬村の柴田精二氏、半田克二郎氏から情報を提供していただいたことに謝意を表したい。

4. 文献

佐藤井岐雄, 1943: 日本産有尾類総説
本郷敏夫, 2000: 秋田県両生類爬虫類分布図. 秋田県環境と文化のむら協会
秋田喜憲, 1982: 宝達山のハコネサンショウウオの産卵場. 爬虫両棲類学会雑誌9-4

* 秋田県鳥獣保護センター

** 秋田県立博物館

*** 秋田県自然保護協会

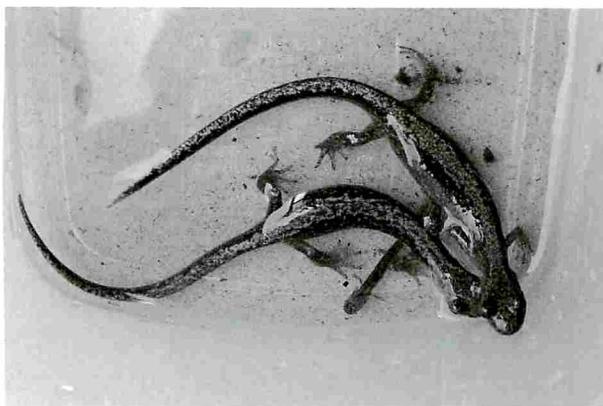


写真1 ハコネサンショウウオの成体と幼生
(上から雌、雄、幼生)



写真2 ブナ林の中の取水施設



写真3 ハコネサンショウウオの卵囊